

gakuto

学塔

図書館新名物：可愛いフクロウが玄関ホールに設置されました。
「教育の神様」 宮田脩平先生（三重大学名誉教授・金属工芸作家）より
2005年8月にご寄贈いただきました。



2006.Spring

No.117



クローズアップ

自著を語る「四国遍路の近現代」

これだけは読んでおきたい

各学部の先生からのオススメ本

From Students

学生さん&図書館スタッフ「座談会」

新データベース紹介

JapanKnowledge、LexisNexis、

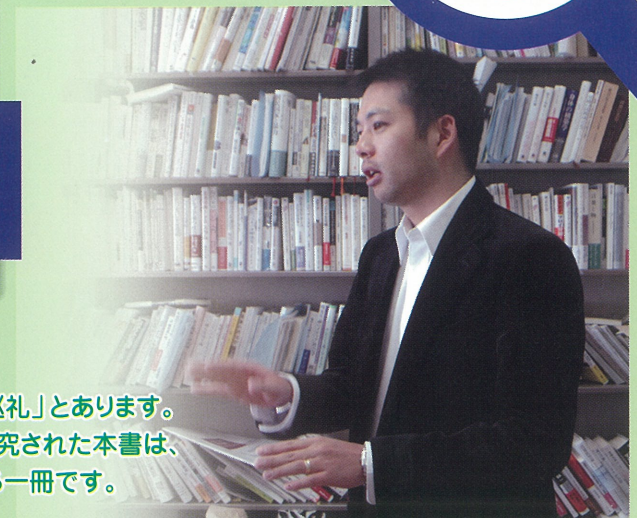
日経BP、ネットで百科

News!

フクロウの愛称大募集

図書館ツアー実施します!

特集 みんなの
故郷・文化再発見!



『四国遍路の近現代』
 『モダン遍路』から『癒しの旅』まで
 〈創元社 2005.9〉
 [所在] 図・展示棚, 図・開架・図書
 [請求記号] 186/Mo 45

森 正人 先生
 人文学部助教授

皆さんは、「四国遍路」をご存知でしょうか？
 「平凡社世界大百科事典」によると「四国の島内に散在する弘法大師(空海)ゆかりの霊場八十八カ所を、順を追って参詣する巡礼」とあります。学位論文をベースに、故郷の「四国遍路」を足と史料を駆使して研究された本書は、「『伝統文化』って実は作られるものなんだ!」と、目から鱗が落ちる一冊です。著者の森正人先生にお話を伺いました。

※1.平凡社「世界大百科事典」は、「ネット百科」で最新情報が調べられます。http://www.lib.mie-u.ac.jp/

「日本人の心の原風景」
 ～それだけか?～

まず本の特徴について教えてください。
 「四国遍路」は、これまで歴史的・宗教的・民俗学的な意味合いから研究されてきました。現代では、「癒し効果」や「自分探しの旅」など、TVやアウトドア雑誌の特集でも取り上げられブームになっていますが、その理由を「日本人の心の原風景」といった面だけで説明するのは、充分ではありません。
 この本で目指したのは、「四国遍路」の近現代―明治以降現在までの百年間―を、観光、マス・メディア、国家政策といった様々な事象、変化する時代や社会との関わりの中で解き明かすことです。

「歴史は繰り返さなご?」
 ～文化の変容～

お遍路さんのスタイルも、時代とともに変化しているんですね。
 四国遍路の百年間を追いかけると、実は第二次世界大戦前と後で、よく似た現象が起っていることが分かってきました。戦前と戦後は断絶しているわけでは無いのです。
 しかし、マルクスという思想家は、ヘーゲルが「世界史上の大事業と大人物はいわば二度現れる」と言ったのに対して、「二度目は悲劇として、二度目は茶番として」と言いました。歴史は繰り返すのではなく、そのように見えて実は意味が異なるようです。
 さらに、「文化」というと、伝統文化、日本文化など昔から変わらず維持されているものをイメージする人も多いと思いますが、実は様々な意図を持った人々によって作り出され続けているものなのです。

※2.ルイ・ボナパルトのブルジョアブルジョア カール・マルクス著 岩波文庫 [PB235.066 / Ma 59]

「本物が偽物か」
 ～二律背反ではない～

本の中では、「四国遍路」の様々な在りようについて悪い悪いという評価をしていますが、人々を好きになった時、ごく自然に、自分をよく見せようとする傾向がありますよね。「比較地域論」という授業で、バリの観光などを取り上げています。例えばバリ・ダンスという伝統文化では、見せる側と見られる側がいるわけですが、そうすると「本物じゃないものは悪い」という批判が出てきます。しかし、そこに善悪を持ち込むのではなく、評価は一旦保留したほうがいい。「何が本物か」という答えは、いくら議論しても永遠に先送りされてしまいます。本物が偽物かではなく、社会の中で変容する事象・人々の営み全体を捉えることが、本質に近づくことだと思っています。

「当たり前」だと思っていたことが実は?
 ～発想が変わった日～

先生の研究のこれまでを教えてください。
 私の研究手法は、地理学の中では端っこに位置しています。卒論は、香川県の「イヤダニマイリ」という習俗について、参詣日などの形態が中心点から離れるにつれてどのように変わるのか、同心円状のモデルを使って分析するという、地理学の伝統的手法で研究しました。それを発表する機会があったのですが、発表の前日、ふと「これは違うんじゃないか。自然だと思っていた現象が、実は誰かに意図的に作られたものじゃないか」と思ったのです。研究上の発想が、構築主義的アプローチに変わった瞬間でした。それでも、地理学が育んできた場所・景観・空間という概念は、やはり重要だと考えています。

「真の『自由』とは?」耐えること
 ～そして新しい視点を持つこと～

真の「自由」を追求してほしい。何でもWeb上で簡単にできてしまうのは、便利でいいじゃないかという風潮がありますが、最初からWebしか知らないという環境はかえって不自由です。例えば本をじっくり読み、著者の思考を時間をかけて追体験すること。フィールドワークで実際に歩き、お遍路さんと同じ空間・時間を共感し、不便さに耐えてみる。物事を理解し、知識を修得するには「耐える」ことが必要です。そのうえで、新しい視点を持つて欲しいですね。

「図書館に読みたい本」

実は学生の頃、専門書を読んだ記憶はありません。研究上転機になった本は、分厚い専門書ではありませんでした。図書館に小説や新書がもたらいたんですね。図書館で学生が多様な本を手にとり取って見ると、いう行為は、フィールドワークに近いと思います。その環境づくりのために、教員ももっと協力しなくてはと思っています。

●森先生をもっと知りたい方は
<http://gaehuman.nie-u.ac.jp/~mori/>

※3.『日本近代文学の起源』 梶谷行人著 講談社 [910.26 / Ka 63]、『戦時日本精神史』 鶴見俊介著 岩波書店 [210.7 / Ts 85]

これだけは読んでおきたい READING * LIST 各学部の先生からのオススメ本

共通教育 久間泰賢先生

中村元 訳
 『ブダ最後の旅 -大バリニッパ-ナ経-』
 岩波文庫
 [所在] 図・開架・PB
 [請求記号] 183.59/B 83

二千数百年以上も前に生きたブダを知ろうとする際には、彼の死後に作られた経典(きょうてん)が助けとなる。その中でもブダの晩年を生き生きと描いているのが『大般涅槃経(だいはつねはんぎょう)』であり、臨終に際してブダが弟子たちに残す遺言の数々は、彼らへの愛情と真理への情熱をリアルに伝えてくれる。この本は、この経典の平易な訳註であり、格好の仏教入門書のひとつでもある。人間味溢れるブダの生き様に思いを馳せてみてはどうだろうか。

生物資源学部 長谷川健二先生

村井吉敬 著
 『エビと日本人』
 岩波新書
 [所在] 図・開架・PB
 [請求記号] 664.7/Mu 41

日本人は、世界一エビを食べる民族だそうだ。国内での供給量よりもアジアを始めとする海外からの輸入によって、そのほとんどがまかなわれている。
 こうした輸入エビは、どのようにして生産され、輸出されてくるのか?読者は、この本を読み進めていくうちに、エビを通してアジアがかかえる環境、貧困などの深刻な社会問題が見えてくる。ぜひ一読を勧めたい。

工学部 清水真先生

化学同人編集部 編
 『実験を安全に行うために』
 化学同人
 [所在] 図・開架
 [請求記号] 432/J 51

化学実験には事故の可能性が潜在しています。したがって、試薬、廃棄物の取り扱いについて習熟していないと実験を適切に行う事はできません。本書を熟読することにより、化学実験を行う際の注意点について理解を深めるとともに適切な準備と行動の重要性を認識することが出来ます。実験上必要不可欠な危険物や有害物質の取扱い法、廃棄物の処置法、応急処置などが具体的に記述されており、化学実験を安全に行うためにおすすめの本書です。

医学部 吉田利通先生

Robbins and Cotran, Robbins (著) W.B. Saunders Co.
森 亘、桶田理喜 監訳
 『ロビンズ基礎病理学』第7版
 廣川川書店
 [所在] 医学科図書室 [請求記号] 491.6/R 51

前者は、1971年にRobbinsによって作られ、4.5年おきに改訂され、初版から現在まで最良の病理の教科書と評価されています。さまざまな疾患における分子、細胞、組織、個体(ヒト)の各レベルを連続的に扱い、臨床での診断、治療のための基礎に発展させるという展開で書かれています。図はカラーで、病変のアトラスともなり、スキームも非常にわかりやすく出ています。日本語訳は誤訳があり、文章もこなれていません。後者の本は、前者の5割増しの記載で、より深い内容を知るためや研究者(特に他分野からの)がいるような疾患の基礎を理解するのに利用できます。

教育学部 中西良文先生

米国学術研究推進会議編 著
 『授業を変える:認知心理学のさらなる挑戦』
 2]世紀の認知心理学を創る会 訳、北大路書房
 [所在] 図・開架・図書
 [請求記号] 371.4/J 92

もしあなたに「国の「教育」を良くせよ」との指令が与えられたら、あなたはどうするだろうか? そのとき、「教育」や「学習」に関する研究者を集め、最先端の研究から現実の教育を良くする方法を提言しよう」と考える人も多いのではないだろうか。本書はアメリカで書かれたものであるが、このような観点から「教育」・「学習」に関わる著名な研究者が集められ、執筆している気合いの入った一冊。学習者も含め、教育に関わる人にとっては、まさに「バイブル」となる一冊である。

人文学部 野村耕一先生

丸山真男 著
 『戦中と戦後の間 1936-1957』
 みすず書房
 [所在] 図・開架・図書
 [請求記号] 310.4/Ma 59

丸山真男という人の存在は高校生の頃から知っていた。この本所収の「盛り合せ音楽会」というエッセイに受験勉強の過程で出会ったからである。大学生になってから同じ著者の『日本の思想』や『現代政治の思想と行動』もあわせて読み、良くも悪くもずいぶん影響を受けた。独断性と裏腹の鮮やかな論理展開が丸山の真骨頂だが、それは毒でもある。今は竹内洋『丸山真男の時代』(中公新書)という解毒剤があるのは幸いかも知れない。

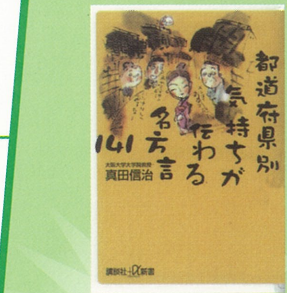
みんなの故郷・文化再発見!

ユニバーサル第2号
特集

新入生の皆さん、入学おめでとうございませう！
皆さんの出身県はどこですか。クラスメイトやキャンパスで出会う人たちがどこから来て、どんな文化を持っているのか気になりませんか？
そして、自分自身のルーツも気になりませんか？
図書館では、新入生Welcomeキャンペーンの環で、地域文化や県民性に関する本をたくさん展示しています(4月～5月)。この機会に図書館に足を運び、皆さんの故郷・文化を再発見してください！



方言・言語学



「都道府県別 気持ち伝わる方言141」
真田信治 著/講談社



「県民性の統計学」
日本人を知る研究会 編/角川書店

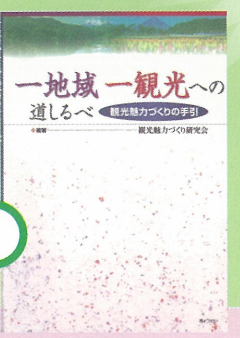
学問的に
深めていこう!



統計資料

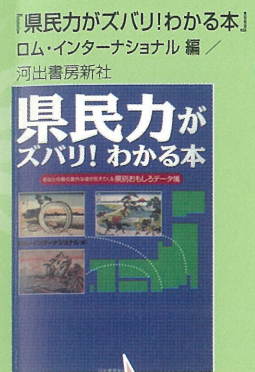


観光政策

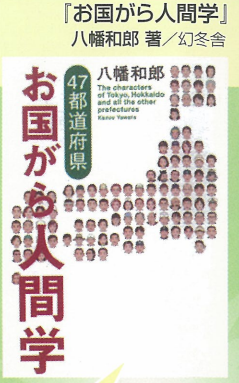


「一地域一観光への道しるべ」
観光魅力づくり研究会 編 著/ぎょうせい

「三重のいちばん」
伊藤理恵、市川さつき 著/三重テレビ放送



統計データも
調べてみよう!



県民性の
ウン・ホント



「県民性「驚き」の法則」
県民性博学会 著/PHP研究所

多数派も
少数派も!



「日本の「食」とくらし」
都道府県別 調べ学習データブック
竹内由紀子 著/学研



「「県民性」の常識・非常識」
日本博学会 著/PHP研究所



「日本の地名雑学事典」
浅井建爾 著/日本実業出版社

郷土資料

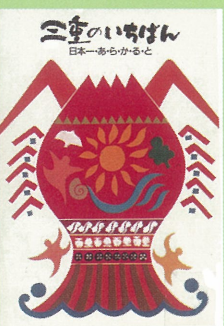


「歴史と文学の回廊8 東海」
ぎょうせい 著/ぎょうせい

比較文化



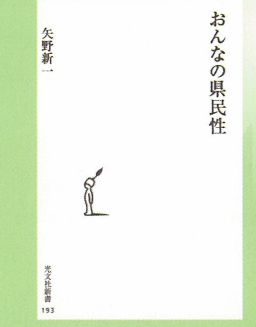
「伊勢路のはなし」
玉村禎祥 著/三重県郷土資料刊行会



「三重のいちばん」
伊藤理恵、市川さつき 著/三重テレビ放送

- 出身県別データは、平成13年度～17年度に入学された方の人数です。
- 図書館のミニ展示は、5月の連休以降、平成18年度入学の方の人数で展示する予定です。
- 「学塔」2006秋号は、留学生のみなさんの出身国を特集する予定です。

「おんなの県民性」
矢野新一 著/光文社



みんなの
常識・非常識

県民性に
法則はあるの?

故郷の味も
地域それぞれ!

君はどこから
来たの?

「日本の地名雑学事典」
浅井建爾 著/日本実業出版社



沖縄県
Okinawa
6

歴史・文化

※本の表紙画像は、出版社の許諾を得て掲載しています。

特集

From Students

三重大大学図書館



●座談会の様子●

(第1回)

学生さん&図書館スタッフ「座談会」開催しました!

三重大図書館は、長期休み以外は通常夜9時(試験期は9時45分)まで開館しています。そして長期休み以外の土日祝日も開館しています。学生さんのご要望に応じてサービス時間を延長してきた図書館を、陰に日向に支えてくれているのが時間外開館担当の学生さんたちです。

2006年春、9名中8名の方々が卒業や修了で三重大を巣立って行かれることになり、これまでのお礼を兼ねて、ざっくばらんに図書館サービスについて語り合う座談会を開催しました。

忌憚の無いご意見や、「なるほど」と思うような具体的なご提案もいただき、とても有意義な会となりました。学生の皆さん、ほんとうに有難うございました!

新入生・在校生の皆さんも、参考にしてくださいね。

皆さんの出身地は?
—三重県出身者は、職員3名。学生さんは、なんと0名!それぞれの地元をお国自慢を披露していました。地元と比べて三重県ってどんなところでしょうか?
—「三重大キャンパスは海風山嵐で寒いって言うけど、日本海側に比べたらずっと温暖ですよ。」
学生時代、図書館の活用法は?
—学部や学年によって、図書館との付き合い方はいろいろみたいです。
—「人文学部としては、図書館の資料が無いとレポートも卒論も書けませんでした。」
—「図書館はしょっちゅう使っていました。三重大の学生全体で十本の指に入るかも。」
—「生物資源学部です。学部生の頃は夏涼しく冬暖かい居心地のいい場所って感じでしたが、院に進んだからは論文の取寄せなどで活用しました。」

いろいろ課題もありますよね。
—カウンターの内側について、図書館サ—「JALについて思いつくものはありましたか?」
—「土日に一般の方が来館されて、その日は利用券が作れなくて本が借りられ

「LIFE MARCH」



●担当職員を囲む学生さんたち●

なかったとか、書庫の本を出してあげられなくて心苦しかったことがあります。」
—「調査依頼にちゃんと対応できないこともありました。」
—「本を読むよりパソコンを使いに来る人も多いです。ほとんどのトラブルはプリンタ関係でした。」
—「自動貸出返却機がうまく動かないとき、カウンターに来てくれたらすぐに出来るけれど、声を掛けてもいいのかな、と迷うことがあります。」
—「利用者のマナーのあまりの悪さにびびくりすることがありました。」
—「バリアフリー対応のトイレや車椅子用のスロープなど、いろいろ改善されたと思います。でも、スロープの先にある新聞が立たないと読めない場所があったり、駐輪した自転車がジヤマで通れなかったりするので、もっと全体の動線を考える必要があるのではないかと思います。」
—「他に改善したほうが良いこと、ありますか?」
—「返本作業の時に思ったんですが、本が多くてギョウギョウの所は、ちゃんと番号順に戻したいと思っても無理かもしれません。」
—「普通の本は分類の番号の所を探せば大丈夫ですが、文庫、特に小説は探しにくいんです。本屋さんみたいに、作家名のインデックスを挟むとか、工夫してみたらどうでしょうか。」

有難うございました!



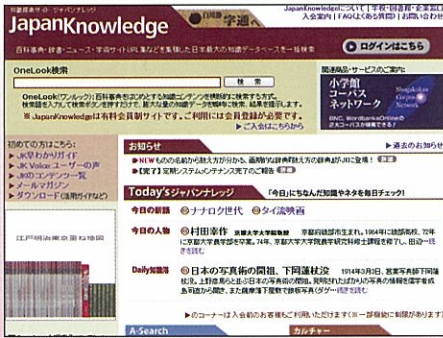
—本探などで困った時は、サービスカウンターにご相談ください!

NEW

新データベース紹介

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp>
 から Check it out !!

☆ 複数の事典類を横断検索 JapanKnowledge



百科事典をはじめ、20以上の辞書・事典類をまとめて検索できます。(同時アクセス: 4)

☆ 法律系論文情報も収録! LexisNexis



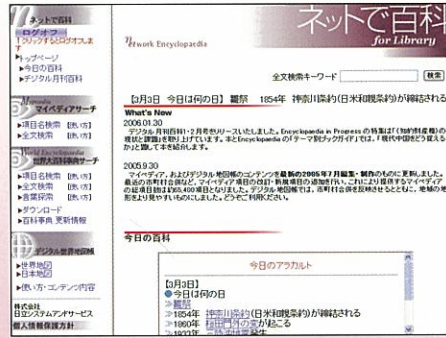
国内の判例や解説、現行法令など、法律関連の情報を幅広く検索できる最大級の法律データベースです。

日経BP ☆ 就職にもお役立ち! 記事検索サービス



「日経エンターテイメント」などの日経BP社が発行する雑誌約40誌の記事を閲覧、検索できます。

☆ 事典の本文も検索できる ネットで百科



平凡社「世界大百科事典」を軸にしたインターネットによる「百科事典」検索サービスです。(同時アクセス: 1)

新データベース紹介

無料トライアル中のデータベース

◆ **Scopus**
 世界最大級の欧文引用文献データベースです。14,000誌以上のジャーナル (MEDLINEを100%カバー) が検索できます。1996年以降の論文には、参考文献や、その論文を引用している文献へのリンクが提供されています。どの論文に、何年に、何回引用されているか調べることができます。

新しい電子ジャーナル 約8,000タイトル以上が利用可能!

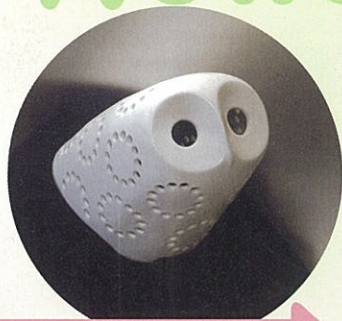
◆ **Oxford Journals**
 英国のOxford University Press社が提供する生命科学、医学、理学、人文科学、社会科学等の雑誌約180タイトルの全文が見られます。

◆ **BioOne**
 生物学・環境科学・生態学関連分野等の雑誌約80タイトルの全文が見られます。

データベースリーフレット

"情報リテラシー" 応用シリーズ
 出ました。
 ◆ Web of Science
 ◆ Scopus
 ◆ Scifinder Scholar
 簡単に! わかりやすく!
 図書館カウンターで配布しています。

News. フクロウの愛称大募集!



募集中!

2005年8月に、本学教育学部名誉教授で金属工芸作家の宮田脩平先生から、可愛いフクロウの像「教育の神様」をご寄贈いただきました。
このフクロウの「愛称」(♂or♀?)を募集いたします。
まずは、フクロウに会いに図書館に来てみてください!お待ちしております。

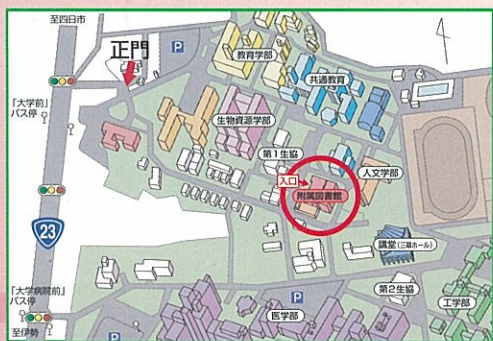
- 募集期間 / 2006年3月~5月末日締切
- 応募資格 / 三重大大学の学生および教職員
- 応募方法 / 必要事項(所属学部・学年、氏名、愛称、コメント、連絡先) メール直打ち(携帯からでもOK)、ホームページ上の申込用紙ダウンロード、図書館備付の申込用紙、新入生図書館ツアー(4/10-21)等のアンケートで応募できます。申込用紙の回収箱は、図書館玄関ホールに置いてあります。メールの場合は、附属図書館情報リテラシー係まで。literacy@ab.mie-u.ac.jp
- 審査員 / 亀岡孝治附属図書館長、宮田脩平先生、附属図書館運営委員の先生方ほか。
- 記念品 / 採用された方(1名)と特別賞の方(2名)に図書カードと記念品を差し上げます!



展示図書コーナー新着図書 (2005年7月~12月発行分)

- 廣岡義隆 (著) 人文学部教授 / 『上代言語動態論』 塙書房 2005.11 [810.23/H 71]
- 廣岡義隆 (著) 人文学部教授 / 『萬葉のこみち』 塙書房 2005.10 [911.12/H 71]
- 佐藤義則 (共著) 人文学部教授 / 『変わりゆく大学図書館』 勁草書房 2005.7 [017.7/Ka 96]
- 西川 洋 (共同編集) 人文学部教授 / 『明和町史 齋宮編』 明和町 2005.10 [092.28/Me 27]
- 吉村英夫 (編) 人文学部非常勤講師 / 『父よ母よ: 大学生の一行詩』 大月書店 2005.12 [911.5/Y 91]
- 社河内敏彦 (著) 工学部教授 / 『Jets, wakes and separated flows』 三重大学出版会 2005.10 [501.29/J 42]
- 木村清志 (編) 生物資源学部附属施設水産実験所助教授 / 『Fishes of Libong Island, Ocean Research Institute』 University of Tokyo 2005 [487.5237/F 28]
- 武村政春 (著) 生命科学支援センター助手 / 『ろくろ首の首はなぜ伸びるのか: 遊ぶ生物学への招待』 新潮社 2005.12 [460.4/Ta 63]

図書館ツアー実施します! ●期間● 2006年 4月10日^[月]~21日^[金]



- ★ 期間中、平日毎日実施
12:15~12:45まで
- 参加無料・予約不要
~フクロウとの対面もできます
- 三重大図書館を初めて使う方はどなたでも大歓迎!
- 集合場所~図書館玄関ホール
- 18(火)、19(水) 英語通訳付
- 20(木)、21(金) 中国語通訳付

予約不要!



*** 編集後記 ***

● 表紙の写真: 『三重県郷土誌』は、本学教育学部の前身である「三重師範学校」の学生が、明治30年代~40年代の夏休みや冬休みの課題として、故郷の地理・歴史・産業について調査した結果を地域別にまとめたものです。平成17年度~18年度に画像データベース化を進め、貴重資料の保存を図ると同時に、広く一般にも公開する予定で、新たな発見が期待されているところです。

『学塔』117号(リニューアル第2号)は、学生の皆さんの出身県や故郷にこだわってみました。読者の皆様にとって、2006年の春が新たな出会いと飛躍の時となりますよう、図書館は様々なメディアによる情報と場所を提供してまいります。